

全船協創立 90 周年記念

全船協創立90周年によせて

創立90周年を迎えた(一社)全日本船舶職員協会の記念誌に寄稿しましたので公開いたします。全船協誕生の歴史、練習帆船「日本丸」「海洋丸」との関係も紹介されています。前身の十一会の意志を読み取り、出身学校に関係なく日本人船員を代表する公益団体へと発展されることを期待し、応援の寄稿をしています。(全日本内航船員の会 事務局)

「全船協創立90周年記念誌」 以下転載

<寄稿文> 「全船協創立90周年によせて」

松見 準 (全日本内航船員の会)

全船協の前身、十一会の始まりは全国11校の公立商船学校のOB16人と聞く。

当時、商船学校には官立と公立とで大きな差別があり、経済力のない公立学校では練習船を持っていなかったり、貧弱な練習船によって大量の死者も出ていた。実態を見かねた公立商船学校出身のOBたちは毎月神戸に集まり議論し、運動の末、現在に続く「日本丸」「海王丸」を誕生させ練習帆船を獲得した。

彼らの取り組んだ問題は「練習船」に限らない。海技試験の制度にも不公平があり、公立校出身者の合否は不等に調整されていた。船員は海と向き合う「実力主義者」であり、リアリストでもある。学閥的な不公平を絶対に許さない。また、公立の各商船学校の地盤が歴史的に船員の血脈を受け継ぐ地域である

ことまで考えると、日本の海洋民の文化と誇りを心身に宿す彼らの願いを単純に水平運動と片づけて語ることはできない。

船員が海で得る共通の「実感」、その点において私たちも当時の彼らと今なお繋がっている。十一会が「全日本船舶職員協会」に改名して90年、海の世界は激変している。日本人船員の主な職域は外航から内航へ移り、すでに92%が内航船員である。外航船員養成の商船高専の卒業生も大半が内航船に就職している。その内航産業には深刻な課題が山積しているのだが、多くの海事組織でこの変化と内航に対応できていない。昨年、海事局が働き方改革の一環で直接船員のスマホから内航の実態を調査する手段にでたところである。

全船協の本質に立ち返り海上を見ると、かつて分散ゆえに苦勞を味わった船員が海ではとっくに一つになっている。全船協は再び役割を果たす。船主団体でも労組でもなく、船員なら誰でも集まれる場所となりたい。また、高度に情報と連携していく船体の進化、産業のアップグレードにも寄与できる時機にある。協会への期待と応援をお願いいたします。

